

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

作家が変装用によく扱えらぶ職業として、画家、劇作家、そして大学の教職者などがある。変装用の職業がまるで何かの書類の職業欄への記入なみで、そう称せられているだけで、その職業生活の面は軽くしか描かれていないのが、普通である。勿論、変装させ得るのは、職業だけでは限らない。住んでいる場所の鎌倉を熱海にしたり、実際は三度の離婚歴を二度にしたりするのも、フィクションならぬ変装である。

もとより、フィクションも変装を隠すための方法である。変装小説の中には、衣の下から鎧よろいの覗のぞいているものもある。場合によっては、鎧よろいが覗のぞいているのが好まれることもある。「虚栄の市」で有名なビクトリア朝の文豪 W・M・サツカレイは、小説が評判を得る三つの場合を挙げている。(一)すぐれた作品である場合、(二)作者が高名である場合、(三)スキヤンダラスな作品である場合、がそれだという。人生肯定の暖かみの伴う諷刺ふうしの得意であったサツカレイの言葉であるから、(三)の場合のスキヤンダルの意味にも広がり想像する必要があるだろうだが、変装小説で衣の下から鎧よろいが覗のぞいた時、それが好まれることもあるのは、この(三)の場合に通底するところがあるのかもしれない。

ところで、**A**と**B**とは共に隠す方法ではあるが、その相違はただ単に隠し方の多寡たかにあるのではない。**B**が自分を隠し、あるいは隠したふりをするものであるのに反し、**A**はより自分を現わすためのものである。自分を隠せば隠すほど、幾重にも自分を包めば包むほど、より深く、より鋭く、自分を現わすことができるので。自分の何を現わすことができるかといえば、自分の事実を超えた本質なのである。

「春琴抄」でいえば、逼塞ひびやくした大商人の御寮人ごりょうじんさんであった松子夫人との毛色の変わった生活が至上のものと思えてならない文豪である谷崎自身の事実を直接に、あるいは**B**によって描いたのでは、真実は捉え得ない。「春琴、ほんたうの名は鴟屋琴」と、彼女の生家の菓種商のもと丁稚であった「佐助」の両人物を作者の精神に根ざして創造し、作者が自分を包みに包むことが刺戟しげきとなって溢れ出る想像力が見事な**A**小説を生み出したのである。作者の自分を包むことへの熱中と筆が進むにつれて現れてくる予感を遙かに超える自分の本質の発見によって、「佐助」として「春琴」の創造性はますます強められる。作中の「佐助」はいずれのどの点を取ってみても「佐助」以外の何者でもない。「春琴」もまたそうである。つまり、谷崎と松子夫人に基づく作品でありながら、完全に二人から独立している作品になっているのである。

「盲目物語」にしても、読み進む程に、揉み療治盲人の創造性はますます強まり、行きわたってくる。盲人の語る言葉は、まるで彼に取り憑つきかれた作者が客ならぬ何者かに語り続ける言葉のような印象を孕はらんでくる。

事実以外のことが書かれているからといって、それすなわちフィクションとはいえない。変装にすぎないものもまた、フィクションとはいえない。文学作品におけるフィクションとは、モチーフが作者の精神に根ざしたものであり、その精神の本質を表したい願望が募る時、その創造が始まるのである。モチーフが作者の精神に根ざしたものであっても、作者の願望がその精神の本質を表したいのではなく、たとえば告白であるならば、それはフィクション小説は全く向かない。告白とは、自己の**C**ではなく、自己の**D**の告白にほかならない。フィクションをまったく排して、自己の行為を忠実に描いてこそ、告白になるからである。

ビクトリア朝：イギリス・ビクトリア女王（在位一八三七～一九〇一）の時代で、議会政治、植民地支配、商工業の発達など大英帝国最盛期にあたる。

W・M・サツカレイ：一八一～一八六三。イギリスの小説家。風刺と写実にすぐれ、『ヘンリー・エズモンド』『虚栄の市』などの代表作がある。

諷刺……社会や人を遠まわしに批評すること。「風刺」とも書く。
多寡……多いか少ないかということ。

「春琴抄」…昭和八年発表の谷崎潤一郎による代表作。美しい女性春琴と、その魅力の前にひざまづく男佐助の倒錯した愛を描いている。

逼塞……八方ふさがりで方法のないこと。

御寮人さん……関西の商家などで用いる若い娘、または嫁の称。

松子夫人……谷崎潤一郎は昭和十年、四九歳で根津松子と再婚した。

谷崎……谷崎潤一郎（一八八六～一九六五）。東京生まれの小説家。病的なまでに女性美を探究した。『刺青』

『痴人の愛』『細雪』などで知られる。

「盲目物語」……浅井長政・柴田勝家二人の武将に嫁し、戦国の世を生きた小谷方と三人の姫君の境涯を、盲いの法師が語る名作。

問一 傍線「自分を隠せば隠すほど、幾重にも自分を包めば包むほど、より深く、より鋭く、自分を現わすことができる」とあるのはどのようなことか。文中の「春琴抄」の例に則して、五十字以内で説明せよ。句読点も一字に数える。

問二 ・に最もふさわしい語を文中から抜き出して答えなさい。

問三 つぎの文で、本文の主旨に合致するものは○を、合わないものは×の記号で答えなさい。

- 1 作者が作品中で変装した場合、完成度を高めるため、容姿や職業は詳細に描かれる。
- 2 作者が作品中で自らの歩みを正直に告白すれば、精神の本質は自ずから現れる。
- 3 作者の日常生活は、「盲目物語」の盲人の語る言葉によって、克明に描写される。
- 4 作者が精神の本質を表したいと願う時、フィクションが生まれる。
- 5 作者が幾重にも自分を包み、注意深く変装した結果、「春琴抄」が生まれた。

問四 ・に最もふさわしい語を選び記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|----|
| C | ア | 印象 | イ | 創造 | ウ | 精神 | エ | 予感 |
| D | ア | 描写 | イ | 事実 | ウ | 模倣 | エ | 行為 |

二 次の傍線部のカタカナを漢字に漢字をひらがなに直しなさい。

- | | | |
|-----------------------|---------------------|----------------------|
| ① <u>ボクメツ</u> に成功する | ② 香の <u>ヨクン</u> がある | ③ <u>キョウイ</u> に感じる |
| ④ <u>ゴウタン</u> をもって鳴る | ⑤ <u>ジュンボク</u> な人 | ⑥ カニは <u>コウカク</u> ルイ |
| ⑦ 心身共に <u>ソウケン</u> です | ⑧ <u>シモヤ</u> けする | ⑨ 反乱を <u>チンアツ</u> する |
| ⑩ 外国に <u>トコウ</u> する | ⑪ <u>カチュウ</u> の人物 | ⑫ <u>チョウエキ</u> 刑を受ける |
| ⑬ 夫に <u>貞節</u> を尽くす | ⑭ <u>禅宗</u> の寺で修行する | ⑮ <u>漸次</u> 改良を加える |
| ⑯ <u>不朽</u> の名作 | ⑰ 杯が <u>下賜</u> される | |